

日本列島、西日本の逃げる先は列島外・・・

原発どうなるうとも踏ん張るしかなし、マァ、ケセラセラ

生産体制の組み替えで、当面は西日本が支えることに・・・

福島原発は、もはや手のつけられない状態ですが、自衛隊や警察が様子を見ながら、それでもある程度の被爆覚悟で踏ん張っているようです。もちろん、とうでんかんけいしや、東電関係者も。17日午後には電源確保か？

アメリカ軍も1万人を超えて作業中ですが、本国から米国民の福島原発から80キロ圏外移動の指示、米軍は民間基準とは別に92キロ圏内への立ち入り禁止指示が出たよう活動範囲が限定されそうです(以上は17日午前11時30分現在情報です)。

大阪は500キロ圏外、最悪の事態(高濃度放射線物質の拡散)になれば、長期的には人体や環境への影響は避けられませんが、いままさぐ、その影響で死ぬわけではない。生存は続きます。高濃度汚染が深刻な関東圏でも同じで、被爆しても生き続けます。

となると、「ケセラセラ、なるようになる」で、悪い条件でも日本列島で生き続けるために必要な活動を続ける必要があります。当たり前前のことですね。

春の選抜野球が開催されるかどうか未定ですが、出場が決まっていた東北高校は、一時出場辞退と発表されています。後に「開催されれば出場する」と訂正されました。

選手達は、「風呂にも入れず、食事も満足でない」といわれています。それでも、被災地を代表して出場したいという決意をしたのでしようから、なんとか実現させてあげたいものです。

具体的に被災地に何ができるでもないのですが(少額の寄付ぐらい)、せめて声援ぐらいはしたいと思っています。

NHKは17日、連続テレビ小説「てっぱん」の総合テレビでの放送を、19日から再開することを決めた。13日の放送が休止された大河ドラマ「江」も、20日から再開する。(読売ネット版)

流浪の旅 (大正10年)

宮島郁芳・後藤紫雲 作詞作曲

流れ流れて 落ち行く先は

北はシベリア 南はジャバ

いずこの土地を 墓所と定め

いずこの土地の 土と終わらん

きのうは東 今日西と

流浪の旅は 何時までつづく

果てなき海の 沖の中なる

島にてもよし 永住の地欲し

おも 思えばあわれ 28の春に

おや 親のみ胸を 離れ来てより

すぎ来し方を 思いてわれは

遠き故郷の み空ぞ恋し

西日本へ「疎開」を〈伝えたい—阪神から〉

2011年3月17日1時20分 アサヒ・コム ■内田樹さん(60) 神戸女学院大教授

阪神大震災が起きたとき、小学6年の娘と芦屋のマンションに住んでいた。タンスの引き出しが顔に飛んできて目が覚めた。歯が折れていた。周辺の木造家屋はほぼ全壊し、神戸の街から煙が上がっていた。マンションは半壊、近くの小学校の体育館で3週間の避難生活を送った。

今回の東日本の地震で対応が難しいのは、まだ災害が終わっていないことだ。福島原発が危機的な状態にある。気になるのは政府・東電の情報が遅く、被害を過小評価する解説が続いていることだ。首都圏から避難が必要ないと言い切る専門家もいる。だが、この後、大量の放射性物質が飛んできた場合、この人はどう責任をとるのだろうか。

危機的状況では、リスクを過小評価するよりは過大評価する方が生き延びる確率は高い。避難が無駄になっても責める人はいない。「何事もなくよかったね」と喜べばいい。「安全だ」と信じ込まされて、いきなり「さあ逃げろ」と言われたらパニックになる。メディアの報道では「避難できる人は避難した方がいい」という専門家の発言が抑圧されているように感じる。

しょうがないから、僕はネットで安全な西日本などへの「疎開」を呼びかけている。とりあえず、妊婦や幼児や病人、児童生徒たちは、用がなければ被災地と救援の活動拠点となる都市部を避けた方がいい。

政府は可能な人には「疎開」を呼びかけるべきだろう。東北・関東から100万でも200万でも人口が少なくなれば、資源への負荷も軽くなり、救援の資材や人員の搬送も円滑になる。

■西日本は被災者を受け入れて

いま、西日本のわれわれに必要なのは疎開を受け入れる準備だ。安全な西日本だからできる支援策を講ずるべきだろう。大阪市長が市営住宅500戸を提供すると言ったが、こういう「歓待」政策が必要だと思う。／私も16日、大学の宿泊施設の点検をした。授業再開のめどがたたない被災地の大学から被災学生を受け入れる計画を検討している。どの大学もそれぞれの規模で被災学生の受け入れを考えてほしいと思う。

西日本の役割は支援する人を「東」へ送り込み、支援を要する人たちを呼び込むこと。一極集中の首都機能の一部を大阪に移す必要もある。オールジャパンで、それぞれの役割にふさわしい支援を工夫することが必要だ。

被災経験から言えることは、被災者は「失ったもの」を数えないこと。命あってのものだねだと、「手元に残ったもの」を数え上げてみる。希望を持つ。希望を持っている人間はしのげる。そして最後は人情にすぎる。16年前、人の情が身にしみた。(聞き手・中村正憲)